

平成30年度 総務文教委員会行政視察報告書

総務文教委員会

委員長 高田 重信

1 視察期間 平成31年2月19日(火)

2 視察先及び視察事項

(1) 山田小学校・山田中学校

「小中一貫的連携教育について」

(2) 芝園小学校・芝園中学校

「小中一貫的連携教育について」

3 視察参加委員

委員長 高田 重信

副委員長 高道 秋彦

委員 金谷 幸則

〃 上野 蛍

〃 江西 照康

〃 東 篤

〃 堀江 かず代

〃 赤星 ゆかり

〃 村上 和久

4 随員職員

議事調査課調査係長 牧野 仁美

議事調査課主査 酒井 優

5 視察概要

2月19日（火）山田小学校・山田中学校、芝園小学校・芝園中学校

（1）視察事項

- ・小中一貫的連携教育について

（2）視察の目的

総務文教委員会では、昨年11月に高知市立義務教育学校である土佐山学舎を視察し、義務教育学校の仕組みや特色ある学校づくり等について学んできた。

富山市では、現在、一部の小・中学校において小中一貫的連携教育を行っていることから、取組みの現状について確認するとともに、義務教育学校の導入の可能性を探るもの。

（3）取組みの概要

- ・山田小学校・山田中学校

山田小学校の児童数は約60名、山田中学校の生徒数は約40名である。

両校の校長等で構成する小・中学校連携企画委員会を月1回のペースで開催し、行事予定を共通理解したり、合同で行う行事について検討している。

日常的な連携（登校時のあいさつやランチルームでの合同給食）や行事による連携（保育園と小学校と中学校の合同運動会、小・中学校の合同集会、合同避難訓練、リンゴ園での摘果・収穫作業、スキー・スノーボード教室など）、生徒指導面での連携（教員が児童・生徒に声をかけて毎日見守ることで、些細な変化に気付くことができ、素早く情報交換ができる）を図るとともに、教職員の研修面での連携（互見授業）や兼務辞令発令による連携（総合的な学習の一部を小・中学校合同で実施）など、それぞれのよさを生かすことを基本に、小・中学校で連携を深めている。

- ・芝園小学校・芝園中学校

芝園小学校の児童数は約620名、芝園中学校の生徒数は約420名である。なお、芝園中学校は約4割の生徒が校区外からの入学者である。

両校の校長等で構成する連絡会議において、年度初めに合同で実施する行事などについての確認を行っており、年度末にも総括を行う会議を行っている。

両校では、互見授業（小・中学校の教師が互いの授業を見て学ぶ）、出前授業（スムーズに中学校生活に入れるように、中学校の教員が小学校6年生の教室に向いて授業を行う）のほか、合同授業や合同合唱、合同避難訓練などを実施している。

校舎等の共有により、児童・生徒が日常の何気ない場面で接することで、お互いを理解し合い、相手を思いやることにつながっている。

(4) 所感

[高田委員長]

昨年11月に総務文教委員会で高知市の義務教育（小中一貫教育）学校である土佐山学舎を視察したが、その時の印象が強くなり、富山市で取り組んでいる小中一貫的連携教育校について、小中一貫校へ移行できないかを研究するために両校を視察してきた。両校とも小・中学校の9年間における児童・生徒のつながりを考慮され、他の学校ではできない取組みが行われ、その成果は大きなものがあった。また、義務教育学校としての施設環境は整っており、その実績・特色をもとにさらに9年間の連携を深めていくことによって、義務教育学校への移行も可能であるように感じた。

[高道副委員長]

小中一貫教育について、今年度は総務文教委員会で高知市立義務教育学校である土佐山学舎、会派視察で水戸市立国田義務教育学校、高森町立高森東学園義務教育学校についての勉強を行った。今回、富山市の小中一貫的連携教育校として山田小・中学校の取組み状況を確認し、メリットとデメリットを学んだ。地域の特性を生かした義務教育学校が全国的にも増えており、県内でも導入に向けて調査・研究している自治体が増えている。中山間地の抱える問題や少子高齢化を踏まえて、将来的にこの地域に合った小・中学校のあり方をしっかりと協議し、地域活性化に向けて取り組むことが必要と考える。

[金谷委員]

富山市の小中一貫的連携教育について、中山間地の山田小・中学校、まちなかの芝園小・中学校を視察させていただいた。山田小・中学校では1学年10人程度の小人数の中で、積極的に小学生と中学生の連携を図る取組みを行っていた。地域との連携が強い地域であり、日常的な連携や行事の連携、生徒指導面での連携など効果的な連携の取組みを学ばせていただいた。

一方、芝園小・中学校では、校区外から入学を希望する児童・生徒も多く、年々児童・生徒数が増加しており、まちなかの選ばれる学校として、敷地や建物を有効に利用した取組みが印象的であった。

[上野委員]

山田小・中学校の小中一貫的連携教育でのメリットは少人数できめ細やかに対応ができること、デメリットは人間関係の固定化である。他学年との交流も緊密になっていた。休憩時間にみずから買いにいけるよう、売店があることは配慮を感じた。遠方通学の受入れの拡充を行うなど、固定化の解消や特色ある学校づくりが進められるのではないかと考えた。

また、芝園小・中学校ではICT教育のモデル校指定や専門的職員の配置があることで教育面の特色があり、校区外からの受入れ数も多く、今後も校区外からの需要はあると感じた。各校の特色を生かした運営で今後のあり方への議論を深めていきたい。

〔江西委員〕

先に全国的に注目を集める高知市立義務教育学校である土佐山学舎を視察し、過疎地における成功例としての印象を強く抱いていた。一方、富山市においては山田地区、神通峡地区は同様の環境に置かれている。今回視察した山田小・中学校は一貫的な連携教育に取り組んではいるが、目に見える学力の向上や入学希望者増などの大きなメリットは生まれていない。やはり義務教育学校制度の調査・研究は必要であると感じた。

〔東委員〕

小中一貫的連携教育のメリットとして、①同じ敷地内で教育を受けていることから子どもたちは感覚的に自分たちの小・中学校の先生と認識しており、一体感があること、②運動会や避難訓練、集会などを合同で実施しており保護者の負担軽減にもつながっていること、③小・中学校の教職員が双方の子どもたちの見守りをしていることから、保護者の安心感につながっていること、④教職員が同じ敷地内で仕事をしているので、異校種の指導法を学ぶことや授業の中での研修を行うことが容易であることが挙げられる。

また、デメリットとして、①体育館、グラウンド、会議室は共用なので、バッティングしないよう調整を密にしなければならないこと、②小学校と中学校では授業時間が違いチャイムを鳴らせないため、教職員は時間管理、子どもたちは時間感覚の養成に難があること、③小学校6年生のリーダー意識と中学校1年生のリセット感覚が十分とは言えないことが挙げられる。

〔堀江委員〕

山田小・中学校は、日常的な連携、行事による連携、生徒指導面での連携、教職員の研修面での連携、兼務辞令発令による連携等、きめ細やかに取り組んでいる成果があらわれている。「山田だから、できない」ということのないように取り組んでほしい。」という要望が強い中で、未就学児のころから中学校卒業まで、同じ児童・生徒間の関わりの中で、概念が固定化されることに対する懸念がある。できる限り交流を重ねることによって、新鮮な関係を子どもたちに与えてほしいと要望する。山田ならではの、特色ある誇りを持てる教育現場として輝いてもらいたい。

芝園小・中学校は、市の学校評価推進事業の読書活動に工夫を凝らし、優秀実践校として、また、プログラミング教育の公開授業を行うなど、魅力ある学校づくりに小・中学校の教職員が協力しあっていることが実感できた。まちなかの憧れの学校として、今後も教育環境の充実強化を期待したい。

〔赤星委員〕

山田小・中学校は、木をふんだんに使った立派な校舎であたたかい雰囲気の中でのびのびと学べる環境だった。地域の風が行き交う学校運営ということで、リンゴ、ソバ、コメ等の栽培活動、マンドリン部の活動など、地域資源や伝統を生かした活動が

推進されている。小中一貫的連携教育では中1ギャップの軽減や兄弟のいる安心感があるとのこと。学校教育目標にある「心豊かでたくましい子ども」たちに育ちそう。小学校の児童数が平成25年度は87人であるが、平成33年度は53人の見通しと、減少が続いている。住み続けられる政策、移住政策等にも力を入れなくてはならない。

芝園小・中学校は、中学生が中学校の先生に言えないことを小学校の先生に話したり、少し「悪さ」をしていたら小学校の先生が注意してくれたり、同じ敷地内にあって多くの教職員が子どもたちを見守っているというのはよいことだと思う。小中一貫的連携教育では、児童と生徒の連携として、中学生の本の読み聞かせが小学生にとってよかったので回数を増やして欲しいとの要望があるそうだ。中学校の教員が小学校6年生に1コマ出前授業を行ったり、小学校の道德の授業を中学校の教員が見るなど、教員同士の連携交流も行われている。「デメリット」を感じることはなかった。

[村上委員]

山田小・中学校については小規模校、芝園小・中学校についてはいわゆる適正規模校である。小中一貫的連携教育校については中心地区の小学校の統合に際し「新しい教育環境の創造」を目指して導入されたものであり、小中一貫教育のメリットとデメリットを勘案し、小中一貫校（今でいう義務教育学校）ではなく小中一貫的連携教育が行われている。いずれもその特色を生かした効果が得られている。特に芝園中学校は生徒数が統合時に比べ200人以上増えており、人気と評価が高い。義務教育学校への移行については両校とも特にその必要性を感じるにはいたらない。現在1小・1中で小規模校のデメリットを抱えている地域において「義務教育学校」もしくは「小中一貫的連携教育校」の創立を積極的に考慮すべきと考える。

平成31年2月19日（火）山田小学校・山田中学校



芝園小学校・芝園中学校

